

仮定法は現行学習指導要領で中学に下りてきた単元で、「教え方の蓄積が少ない」と感じている先生が多い文法項目です。幸い、仮定法は題材そのものが面白い文法。「もしも」を語る活動は中3の想像力と相性抜群です。この授業案は、ペア→グループ→全体と発話の負荷を段階的に上げる構成で、全員が安心して「もしもの世界」を語れるように設計しています。

この教材で解決できる悩み

- ・ 仮定法を教えるのが初めてで、導入の定番パターンがない
- ・ were / could の形は覚えても、直説法のifとの違いが伝わらない
- ・ 受験期の3学期、緊張感のある教室の空気を少しほぐしたい

教材の概要

項目	内容
対象	中学3年(BLUE SKY 3 Unit 6)
文法項目	仮定法過去(If I were / If I could)
形式	授業案A4・3ページ(お題カード24枚つき)
所要時間	50分×1コマ
準備物	お題カード(グループ数分を印刷・裁断)

授業の流れ(50分)

導入: 現実と「もしも」の対比(10分)

教師が2文を並べて見せます。

- ・ If it is sunny tomorrow, I will play tennis.(起こりうる)
- ・ If I were a bird, I would fly to Okinawa.(起こらない)

「起こる可能性があるか？」だけを問い、可能性ゼロの世界では動詞が過去形に変身することを生徒の気づきとして引き出します。

展開1: ペアでウォームアップ(10分)

シートの文フレーム(If I were ～, I would ... / If I could ～, I would ...)を使い、「もし透明人間だったら」を全ペア共通のお題で話します。共通お題から始めるのは、他ペアの表現を盗み聞きできるからです。

展開2: お題カードトーク(20分)

グループでお題カード(もし動物と話せたら／もし江戸時代に住んでいたら等の24枚)を引き、1人1分で「もしもの世界」を語ります。聞き手には That's interesting! / Me too! などのリアクション表現カードを配り、聞く側の仕事も明確にします。

まとめ: ベストもしも発表(10分)

各グループの「一番面白かったもしも」を代表が全体に発表します。笑いが起きたら成功です。

be動詞は was ではなく were を使う点は、導入時に「もしもの世界専用のbe動詞」と名づけてしまうのが定着への近道です。「現実世界のwas」と対にして板書に残してください。

高校入試との接続

仮定法は新課程入試で出題が増えています。本時の口頭表現をそのまま「If I could use magic, ...に続けて2文書きなさい」形式の英作文練習につなげると、話す→書くが1本の線になります。